



# 海と時を越えて伝わる思いを受け取ろう!

～読む、選ぶ、解釈する。自分だけのブック創り～

—『津田梅子』— 未来をきりひらく「人」への思い(6下)—



習志野市立屋敷小学校 主幹教諭  
こまつしる へり  
小松代 絵里

**目標** 「梅子生き方ブック」の作成を通して、条件に応じて要旨を整理する力と、叙述をもとに津田梅子の人物像や生き方を精査・解釈する力を高め、自身の生き方について考えをまとめることができる。

(思考力、判断力、表現力等) C(1)エ・オ

**単元計画** (全11時間)

	「読むこと」の学習過程に応じたねらい	学習活動	具体的な言語活動例
1次 つかむ 4時間	<b>構造と内容の把握</b> 津田梅子の生涯を「ハイライト年表」と「条件あらすじ」に整理する活動を通して、教材文の内容を正しく理解する力や条件に応じて情報を操作・運用するための基本的な技能の習得をねらう。  「条件あらすじ」に設ける条件 ・字数制限(180～200字) ・最後の一文を「梅子の人生は○○であった。」と限定。 ※条件によって再読の必要が生じる。	<b>1・2「ハイライト年表」を作る</b> ・範読を聞いた後、梅子の人生のハイライトを一文で発表する。(一斉) ・起こった順に短冊の並び替えを行い、西暦と当時の年齢を叙述をもとに整理する。(個人)  <b>3・4「条件あらすじ」を書く</b> ・条件を確かめ、教師見本を分析する。 ・条件に応じてあらすじを書く。 ・最後の一文を中心に共有する。	
2次 深める 4時間	<b>精査・解釈</b> 梅子の人物像や生き方に影響を与えた人々について「梅子生き方ブック」に整理する活動を通して、叙述をもとに梅子の人物像や梅子に影響を与えた人物について効果的に表現する力を育てるとともに、ブックに表れた表現に児童自身が創り出した自分のこれまでの経験や考え方が投影されていることに気づくことをねらう。  「梅子生き方ブック」に設ける条件 ・選択できる叙述や人物数の制限 ※数の制限によって叙述どうし、人物どうしを比べて読む必要が生じる。	<b>5・6叙述をもとに梅子の人物像を「梅子生き方ブック」にまとめる</b> ・梅子の人物像が表れていると考える叙述を五つ選んで書き抜く。 ・選んだ五つの叙述をもとに、梅子の人物像を一言で表す。  <b>7・8叙述をもとに梅子に影響を与えた人物について「梅子生き方ブック」につけ加える</b> ・梅子の人物像や生き方に影響を与えた人物を3人選び、選んだ理由と、梅子にとってどのような存在であったかを一言で表す。	
3次 生かす 3時間	<b>考えの形成・共有</b> 2次までの学習を生かして「自分生き方ブック」を作成する。この活動を通して、児童自身がこれまでを振り返り、学びを生かす態度を育てることをねらう。	<b>9～11自身の人物像と、周りの人々について見つめ直し、「自分生き方ブック」にまとめる</b> ・「梅子生き方ブック」に表れた自身の価値観やこれまでの人生を振り返り、「自分生き方ブック」に表し、読み合う。	

※「具体的な言語活動例」の教師見本はQRコードをご参照ください。

## 1 はじめに ～伝記を「読む」授業づくり～

伝記とは、幾多の記録に記された人物の生涯を筆者が自分なりの解釈によって語り直した文章だと考えます。それは客観的事実とそれに基づいて創造された被伝者\*の人物像が縦糸と横糸のように編み上げられた文章、すなわち「説明的文章」と「文学的文章」両方の特徴がみられる文章とも考えられます。

以上を踏まえた、伝記を「読む」授業づくりの案を、学習指導要領の「読むこと」の学習過程にそって以下のように提案します。

\*伝記などの本で、書かれている対象の人

1次

客観的事実を整理するため、説明文の学習を生かして内容の把握をする。(構造と内容の把握)

2次

筆者の解釈による人物像を物語文の学習を生かして精査・解釈する。(精査・解釈)

3次

これまでの読みを通して、児童自身の考えを形成・共有する。(考えの形成・共有)

## 2 思考を促し児童の「想いや考え」を創出させる条件

### 1次 「ハイライト年表」「条件あらすじ」について

伝記の客観的事実を整理するために有効な言語活動として、「年表作り」や「要約」があげられます。しかし、読むことが苦手な児童にとって、長文からできごとを適切に選び出したり、観点がない状態で要約をしたりする活動は困難です。

そこで、以下のような発問とてだてを講じます。

ハイライト年表 T教師 C児童

T 梅子の人生のハイライトはどの場面?

C 「女子英学塾」を創立した場面

C 6歳でアメリカ留学が決まった場面

T (発表順に短冊が提示された黒板をさして)

正しい順序に並び替え、そのできごとが何年に起きたのかを書き加えましょう。



板書例

個人の年表作りに入る前に、一斉で梅子の人生のハイライトを共有します。できごとを記した短冊を発表順に提示することで、時系列を無視した梅子の生涯が板書に表れます。これらを時系列順に並び替える活動は、再読の必要を生むとともに、焦点化された情報の整理につながります。さらに、要約する活動に取り組むことで、梅子の生涯をより正確に捉え、2次で読み

を深めるための素地をつくることができます。

要約においては、字数と最後の一文に条件を設けます。字数に制限を設けることで、児童によって異なる山場や感銘を受けた場面が浮かび上がるとともに、必要な情報を選んだり、冗長な文章を削ったりするために再読の必要が生じます。また、最後の一文を穴うめにすることで、梅子の人生をどう捉えたか、個々の「想いや考え」の違いが明らかになることが予想されます。

## 2次 「梅子生き方ブック」について

筆者の解釈による人物像を読み取り、自分なりの「想いや考え」を生み出すために、①梅子の人物像が表れている叙述を五つ、②梅子に影響を与えた人物を3人選ぶ、という条件を設けます。選ぶためには、叙述を読み比べる必要があります。また、選ぶ観点は児童自身の「想いや考え」や価値観となります。例えば、②の人物を3人選ぶ過程では、以下のような思考がはたらくことが予想されます。

C ランマン夫妻の愛情とトマス先生からの期待はどちらも大事だけれど、夫妻の愛情に包まれていたからこそ、梅子は心が折れずに留学生活を送れたと思う。だから私はランマン夫妻を……

このように、比べ読みをする過程で、自然と価値観が投影されるような言語活動を設定することが、自身を振り返って考えをまとめる3次につながります。

## 3 自身の読みを振り返り、まとめる単元の終末

### 3次 「自分生き方ブック」について

「梅子生き方ブック」では、条件を設けることで自身の価値観を投影させながら梅子の人物像などに迫っていきました。単元の終末では、2次と同様に①自身の人物像を表すできごとや言葉、②これまで影響を受けた人物について「自分生き方ブック」にまとめます。偉人「梅子」と自分自身を直接比較することは困難ですが、伝記の読みを表れた自分の「想いや考え」を材料に12年間を振り返りまとめることで、これからの生き方を考えるきっかけになることを期待します。

## 4 終わりに

伝記を「読む」授業を行う際には、被伝者の生きた時代背景をつかむことも大切です。社会科などと絡めて教科横断的に扱うことも考えられます。